

②フナ釣り

日本一のフナ釣りのメッカ びん沼

魚と自然環境を守る
埼玉南部漁業協同組合 漁場監視員 鈴木孝治さん

―漁業組合ということですが、組合員はどんな人ですか。

鈴木 漁師です。

―しかし、現在漁で生計を立てている人はいませんね。

鈴木 昔漁師をやり舟を持っていた人がそのまま組合に残っているわけです。他に、今では組合員の3分の1は釣り人になっています。

一般にはなじみのうすいびん沼も、釣り場としては全国的に有名だ。フナの釣り場として訪れる釣り人の数は日本一という。このびん沼の釣り人気は、豊かな自然と、魚を供給する漁業協同組合の努力によって支えられている。埼玉南部漁業協同組合でびん沼の監視を担当する鈴木孝治さんにお話をうかがった。

―南部漁業組合というところの地域ですか。

鈴木 埼玉県に9組合ありまして、びん沼や伊佐沼の管轄を受け持っているのが南部漁業組合です。

―そうすると、組合の主な事業は釣り場の管理ということですか。

鈴木 そうです。遊漁券の販売をしながら、ゴミの問題や火を使わないように取り締まりをしています

―遊漁券とは。

鈴木 釣りをする人には、買っていただきます。1日で400円、年間で買うと3000円です。毎日来ている方もいますが、1日あたり6円70銭の計算に

なります。

ただ70歳以上と障害者、中学生以下の子供さんは無料の券をお渡しします。―遊漁券は払わないと罰則があるのですか。

鈴木 法律で漁業権は漁協にあり、払わない方は漁場から退場していただくこと

になっています。皆さん払っていただけますが、以前はけんかを売ってくる方もいました。今はそういう人はほとんどいませんね。―これだけ広いと見回りは大変ですね。

鈴木 朝の7時から4時頃まで、1日3万8000歩歩きます。



一定の間隔で釣り人が並ぶ

―釣り人は何人くらいいるのですか。

鈴木 2500人くらいです。

―土日は。

鈴木 3000人以上です。

―釣りはヘラブナなのですか。

鈴木 ヘラブナが多いですが、いろいろですね。リールの人はコイ、ウナギ、ナマズをやったり。

―魚は自然に育った魚なのですか。

鈴木 魚は、放流したものです。

―どんな魚を。
鈴木 ヘラブナ、マブナ、コイからウナギ、ナマズ、ドジョウ、ハヤ、さらには

です。私どもが、いただきたいお金で、全部放流しています。



来たり。最近は、放射能問題もあり、茨城の方の人が増えています。昔は向うに釣りに行ったものですが。

—ここはなぜそんなに人気があるのですか。

鈴木 魚が多くてそれだけ釣れるのと、野釣りでこれだけ広い釣り場はありません。やはり自然がすごいですから。

—季節は。

鈴木 年中です。1月1日が一番多いのです。日の出とともに皆釣っています。

—釣った人は、魚をまた水に戻すのではないですか。

鈴木 そうです。今は釣るだけの楽しみです。昔の漁師さんのように、食べるための魚を釣っている人はいません。昔は、コイなどを獲ればお金になりましたが、—釣り場としての問題は何か。

鈴木 やはりゴミです。私からは、買って来たお弁当のゴミはまたコンビニに持って行ってくださいとお願いしています。特に土日にかけて釣り大会がよく開かれるのですが、初めての人はゴミを全部置いていってしまうことが多いです。自分たちもボランティアを使って、清掃はしています。

—他に。
鈴木 これから冬になり、やはり火ですね。草も枯れてきて、火がつくと一面に燃えだしてしまいます。タバコのポイ捨てでもされると困ります。

—鈴木さんはずっとこの仕事を。
鈴木 30年になります。元々このあたりで網を使って魚を獲っていました。

—周囲の宅地化が進まず、また観光地として注目されないがゆえに自然が残っていること、そして鈴木さんたち漁協の方々の努力のためものだ。釣り人の人たちは、釣る魚は放流されたものだと知っているのだろうか。

◇
びん沼が日本一の釣り場というのは驚きだ。

周囲の宅地化が進まず、また観光地として注目されないがゆえに自然が残っていること、そして鈴木さんたち漁協の方々の努力のためものだ。釣り人の人たちは、釣る魚は放流されたものだと知っているのだろうか。

(金子 豊治郎)

ゴミと火が問題

ですが、暖かいとダメなので、11月から12月までに6トンほどです。

が多いのですか。

鈴木 そうです。ヘラブナでは日本で一番です。関西からも来ています。バスで



鈴木さん

金を取っている人もお